

生徒発表

おもちゃトレードセンターの取組について

東京都立足立工業高等学校 生徒会 薊 正三郎 他
指導教諭 青木 嘉正

1. はじめに

本校は東京都の足立区にある工業高校であり、平成24年12月で創立50周年を迎えた。

生徒の在籍数は470名程度で、その在籍数の9割近い生徒が足立区在住という地元密着型の工業高校である。

本校の設置学科は総合技術科のみであるが、2年生から機械系と電気系に分かれ、それぞれ専門性を深めていくカリキュラムをとっている。

本校は資格取得にも力を入れており、今年度もジュニアマイスターゴールドを取得予定の生徒がいる。また、部活動にも積極的に力を入れ、野球部・サッカー部・陸上部・硬式テニス部・柔道部・原動機部・マシンクラフト部など多数の部が毎日練習・活動を行っている。

2. 「おもちゃトレードセンター」について

おもちゃトレードセンターとは、平成19年4月より足立区が実施している事業である。

足立区民の方が使用しなくなった「(電動式の)おもちゃ」を持ち込んでもらい、そのおもちゃの機能や状況によって審査し、ポイントをつけ「あだちエコネットポイントカード」に付与する。そのポイントを使い、展示されている気に入ったおもちゃと交換する仕組みになって



写真1 足立区おもちゃトレードセンター

いる。また、このポイントは足立区内で取り組まれているペットボトルや空き缶などのリサイクル回収機でも付与され、そこで得たポイントでもおもちゃと交換できる仕組みになっている。

平成20年に足立区から本校に参加の要請があり、同年4月から足立工業高校の生徒たちがボランティア活動の一環として参加している。

開始当初は毎月第1日曜日の開催であったが、現在は毎月第2日曜日の開催となっている。開催場所は足立区おもちゃトレードセンターである。利用者は年々増えている。

この施設に持ち込まれたおもちゃの中には修理やクリーニングが必要なものもあるので分解し修理・クリーニングも行っている。

3. 生徒の取組について

参加当初はボランティアを校内全体から募り

4～6名程度で参加をしていたが、現在は生徒会役員中心の活動になっている。しかし、役員以外の生徒も多数参加を希望し、毎回4～8名程度が参加している。

このトレードセンターには足立区職員が3名、トイドクターが1名いる。その方たちと一緒に業務を行うのがボランティアの活動内容である。

主な活動内容としては、

- I. 受付業務
 - II. ポイント数の査定業務
 - III. あだちエコネットポイントカードへの付与業務
 - IV. 受け取ったおもちゃの整理業務
 - V. 修理業務
 - VI. 品出し業務
 - VII. ポイントとのおもちゃ引き換え業務
- 以上である。

これらの内容を1人の生徒が複数担当して活動している。

では、これから活動内容について説明していく。

I. 受付業務

毎回150人を超える来場者がおり、おもちゃの受け入れ件数が50件～100件程度である。さらに、ポイントを使ってのおもちゃの引き換え件数が50件～90件程度になっている。

開館時間が10時～16時の6時間の中でト



写真2 受付業務

タル100件～190件の受付業務を行うのは、本校の生徒が協力しなければ足立区職員だけでは決してできないと思う。

II. ポイント数の査定業務

この業務については、受付業務を兼ねていることが多い。持ち込まれたおもちゃの状況によって基準に合わせてポイントが付加していく。

III. あだちエコネットポイントカードへの付与業務

ポイント査定をした後にポイント数を専用端末でエコネットポイントカードへ付与していく。

ここで大切なことは、間違えてポイントを付与してしまうと、おもちゃトレードセンターにお越しいただいた方に迷惑をかけてしまう為、付与作業は慎重に行う必要がある。

そのため、この業務については生徒だけではなく足立区職員も一緒に行い、複数の目で確認している。

IV. 受け取ったおもちゃの整理業務

毎回50件～100件程度のおもちゃの持ち込みがあるため、整理が大変である。

まずは修理があるかどうかの仕分け作業から始まる。実際に通電し遊んでみる。ここで遊ぶことができれば良いのだが、遊び方が解らなく、更に説明書のない物については、みんなで相談したり、インターネットで調査したりできるだけ調べる。

その作業を経て故障していると判断した場合



写真3 ポイント付与業務



写真4 おもちゃの山

は、併設している修理工房へ回す。

上記の様に大変な作業になることも多々あるため、1日で仕分けられる数が限られてしまい、当日に持ち込まれたおもちゃの仕分けが終わらないこともある。

V. 修理業務

整理業務で修理が必要と判断されたおもちゃをトイドクターと一緒に修理していく。

この業務で難しいのは、どこが壊れているのか判断する事と、修理部品が無い場合にどうするのかを考えることである。

トイドクターに相談し、どの方法で修理をすべきかを判断する。中にはどうしても修理できないものは諦め、その他のおもちゃを修理していく。

いずれにしても、トイドクターの指導の下で、修理作業を行っていくため、学校で学んだ専門知識・技術を活かし、実践力を身につけられる



写真5 修理工房の様子



写真6 トイドクターとの修理作業

機会となり、生徒の自信につながっている。

VI. 品出し業務

修理工房で修理したおもちゃを陳列する前に何ポイントで交換可能なのかを示す札をつけ、ポイント毎に棚を変えて並べていく。この業務では、いかに見やすく見栄え良く陳列するかに気を使う。

VII. ポイントとおもちゃ引き換え業務

展示されたおもちゃを足立区民の方に渡す時に、足立エコネットポイントカードを預かり、専用端末を操作してポイントと引き換えに、おもちゃを渡す。

おもちゃを受け取る時の子ども達の笑顔を見ると、とても忙しい作業だが、とても気持ちが良い、やりがいを感じてしまう。



写真7 展示されたおもちゃの一部



写真8 引き渡し時のポイント処理



写真9 3R推進協議会会長賞

4. この取組をして

この活動を続けた結果、足立区の事業に多大に貢献しているとして、足立区長から毎年感謝状をいただいた。

この感謝状を励みに、苦勞することもあるが生徒達は頑張ってきた。さらに3年間以上続けてきた結果、昨年度「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」と「東京都教育委員会児童・生徒等表彰」の2つの表彰状をいただいた。これらの表彰によって一層ボランティアへの意気込みが強くなったようである。

5. 最後に

このボランティア活動は今後も生徒会を中心に活動を続けていくと同時に、生徒への声かけを積極的に行い、たくさんの生徒がボランティアの大切さを体験してもらえるように働きかけ



写真10 東京都教育委員会表彰

ていきたい。また、何でも使い捨ての世の中から物を大切に使う精神を養ってほしいとも感じている。

更にこの活動は地域貢献度の強い活動であるため、本校の生徒が活動している姿を多くの方に見てもらい、工業高校を理解していただきたくさんの方が足立工業高校へ入学したい・させたいと思えるような学校にしていきたいと考えている。

工業教育資料 通巻第 348 号

(3月号) 定価 210 円 (本体 200 円)

2013 年 3 月 5 日 印刷

2013 年 3 月 10 日 発行

印刷所 株式会社インフォレスト

© 実教出版株式会社

代表者 戸塚雄式

〒102 東京都千代田区五番町 5 番地

-8377 電話 03-3238-7777

<http://www.jikkyo.co.jp/>